

愛知教育大学大学院 教育学研究科 2025

— 高度な実践力と深い専門性を学ぶ新たなステージへ —

open to anyone interested in education from around the world



AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION



国立大学法人

愛知教育大学

より質の高い 専門職の養成を目指して

小学校教員採用試験の倍率は近年過去最低を更新し続けている状況です。臨時任用の講師も不足し、自治体によっては年度当初から学級担任でさえ不足する事態が起きています。教師不足は今や社会問題化しています。中央教育審議会は「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」と銘打って対策を講じています。その対策は、私の目には、教師の「量の確保」を優先しているように映ります。そのような状況だからこそ「質の保証」が大切であると思います。目先の対策だけでなく10年先20年先を見通した教員を育成する必要を強く感じます。

本学は2020年度に、これまでの大学院教育の成果を踏まえ、学部教育との一貫性・系統性を保ちながら、新しい学校づくりの核となり得る教員及び専門職業人の養成を目指して改革を行いました。また、この数年間でのニーズを踏まえ新たなコースを新設したり、選択が可能な実習を用意したりしています。

本学の大学院のカリキュラムには、多くの実習の機会がありますので、学部から直進で進学する学生の皆さんは、実習先で授業やカウンセリングを見たり、実践したりすることで、理想とする具体的なイメージをもち修了し、質の高い仕事のできる教員等の専門職を目指してほしいと思います。

現職で進学される皆さんは、それぞれ課題を持って進学してこられます。勤務しているとなかなか課題とじっくり向き合う時間が厳しいと思いますが、1年間、心のゆとりを持ち、じっくり向き合い教育観を見直すことが、その後の専門職としての生活を豊かなものにしていく機会になるとと思います。

また、2021年度から教育行政職等の高度化を目的とした「教育ガバナンスキャリアコース」を新設しました。新設に当たっては、豊橋市、豊田市、刈谷市のご理解をいただきました。全国でも珍しいコースであり、先進的な取り組みを進めています。

本学大学院で、皆さんと出会えることを楽しみにしています。

愛知教育大学長

野田 敦敬

NODA Atsunori



愛知教育大学大学院の教育組織

教育学研究科

<h3>教育実践 高度化専攻</h3> <p>教職大学院の課程</p> <p>標準修業年限2年 入学定員: 120名</p> <p>P.3</p>	対象	コース	取得学位
	現職教員	学校マネジメントコース	教職修士(専門職)
	現職教員 ・ 学卒者 ・ 社会人等	教科指導重点コース 【言語・社会科学系】 【理数・自然科学系】 【造形・創造科学系】 【小学校教育指導系】	
		児童生徒発達支援コース 【生徒指導・教育相談系】 【幼児教育実践系】 【養護教育実践系】 【特別支援教育実践系】	
	地域・教育課題解決コース 【外国人児童生徒支援系】 【ICT活用・科学ものづくり推進系】		
<h3>教育支援 高度化専攻</h3> <p>修士課程</p> <p>標準修業年限2年 入学定員: 30名</p> <p>P.7</p>	対象	コース	取得学位
	学卒者 ・ 社会人等	臨床心理学コース	修士(教育学)
	留学生	日本型教育 グローバルコース	
	学校事務職員 ・ 自治体職員等	教育ガバナンス キャリアコース	
<h3>共同教科 開発学専攻</h3> <p>後期3年だけの博士課程</p> <p>標準修業年限3年 入学定員: 4名(本学分)</p> <p>P.9</p>	対象	分野	取得学位
	修士課程修了者 ・ 教職大学院修了者	教育環境学	博士(教育学)
		人文社会系教科学	
		自然系教科学	
	創造系教科学		

教育実践高度化専攻

教職大学院の課程

教育実践高度化専攻は、学校教育に関わる理論と実践の融合を基本とし、理論の応用並びに実践の理論化に関わる諸能力の修得によって実践的指導力を備えた教員を養成するとともに、一定の教職経験を有する現職教員に対しては、確かな指導理論と実践力・応用力を備え、指導的役割を果たし得る教員を養成することを目的としています。

2020年度から、「学校マネジメントコース」「教科指導重点コース」「児童生徒発達支援コース」「地域・教育課題解決コース」の4コースを設置しています。

❖ 修了要件

本専攻では、理論と実践の融合を図るため、共通科目(18単位)と実習科目(10単位)を含み、修了するために必要な科目及び単位数計46単位について、次のとおり定めています。修了後、教職修士(専門職)の学位が授与されます。詳しくは、右のQRコードからご確認ください。



■ 授業時間

原則として月曜日から金曜日まで各4時限で実施します。また、集中講義にて実施する場合があります。

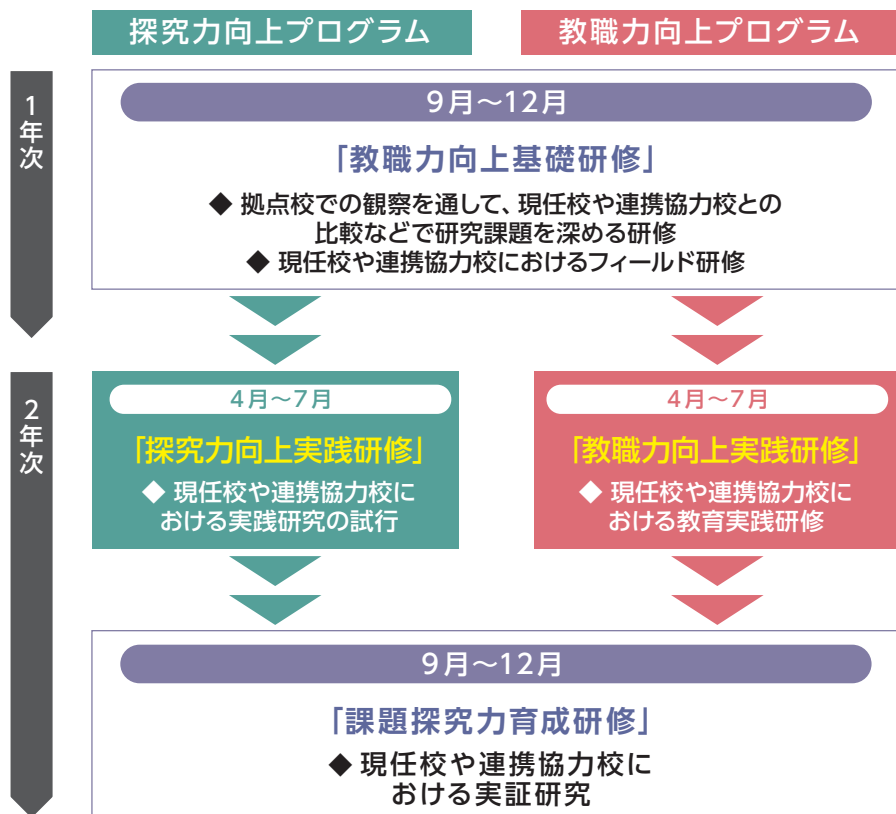
時限	授業開始・終了時間
第1時限	9:10~10:40
第2時限	10:50~12:20
第3時限	13:20~14:50
第4時限	15:00~16:30
第5時限	16:40~18:10
第6時限	18:20~19:50

科目区分	単位数(合計46単位)	内容
共通科目	18	共通科目は、教育学・心理学などの教育科学系の専門性を活かし、理論と実践の往還を支える共通5領域科目(16単位)に加えて、大学独自に「体験プログラム開発に関する領域」(2単位)を設定しています。
専門科目	14	各コース共通科目でデザインされた科目群を基盤として、専門科目関連(10単位)を学修し、集大成として実践研究省察に関する科目(4単位・実践研究報告書作成)を設定しています。
実習科目	10	理論と実践を往還し、融合を図る学校研修を置いており、計10単位修得します。詳細は下の実習科目の項目をご参照ください。
自由科目	4	教育実践高度化専攻及び教育支援高度化専攻の全てのコースから、専門的関心に応じて計4単位修得します。

❖ 実習科目

※教職力向上プログラムは、すべての志願者が申請できますが、探究力向上プログラムに申請できるのは、教科指導重点コース(言語・社会科学系、理数・自然科学系、造形・創造科学系)と児童生徒発達支援コース(すべての系)の志願者です。

2年間の研修のイメージ



・教職大学院へ進学した理由について教えてください。

教職大学院に進学した先輩の先生から話を聞かせてもらったことがきっかけです。学校現場を離れ、充実した日々を送る中で確かな学びがあると教えていただきました。私も、一度立ち止まって、じっくり学び直すことが、自分を成長させるチャンスだと思い、進学を希望しました。また、切磋琢磨できる仲間に出会い、たくさんの刺激を受けられることも楽しみにしていました。

・研究テーマについて教えてください。

「子ども理解および指導省察のためのツールで進める組織的な担任支援」です。テーマ設定の理由は、学級経営で感じる日々のもやもやを、担任一人で悩み、抱え込んでしまわないようにしたいという願いからです。具体的には、「コア・システムとプロセスファシリテートチームの支援」を基盤とした相互コンサルテーションを導入し、ツールと相互コンサルテーションを通じた担任の子ども理解が、担任の指導の省察及び改善にどのように効果がみられるかを検討していく研究です。

・大学院で学んだことをどのように自身の仕事に活かしていきたいですか。

大学院で得た理論や知識を同僚や地域の仲間へ伝えていきたいです。また、教職大学院に進学して一番よかったことは学ぶ楽しさを知ることができたことです。学校現場に復帰してからも、学び続けたいと思っています。自分自身が学びを止めないことで、子どもたちに学ぶ楽しさを伝え続けていきたいです。

教育実践高度化専攻(教職大学院) 児童生徒発達支援コース2年生

中川 明 さん
名古屋市の公立小学校教諭



※一定の教職経験のある学生については、本人の申請に基づき、本学が定める審査基準によって実践成果を評価した上で、実習科目の一部の履修を免除した単位認定を可能とします。

》》 学校マネジメントコース

学年・学校経営力・カリキュラムマネジメント力に長けたミドルリーダーの育成

本コースは現職教員を対象としたコースです。カリキュラムの特徴としては、法的背景を基礎に、「チーム学校」として学年・学校の中心となって活躍することができるミドルリーダー育成を目的としています。多様な理論に焦点をあてながら、学級・学年・学校経営、人的・財政的な組織マネジメントや、マスコミ対応を含めた危機管理、学校・人事評価、地域連携等の学修を行います。また、学級担任・学年主任・研究主任等、それぞれの立場におけるカリキュラムマネジメントを推進するために、学級・学年・学校マネジメント等を踏まえた組織開発、教師の職能育成のための授業研究の在り方等を中心に学修します。本コースでは、教科等の枠組みを超えて、学校教育を俯瞰的に分析し、これからの学年・学校づくりを探究する人材を求めます。

■ 時間割の例

1年前期	月	火	水	木	金	1年後期	月	火	水	木	金
1	人事マネジメント	道徳教育の理論と実践				1			クライシス/リスクマネジメント		
2		カリキュラムのデザインと評価	教職員の職能開発		学校マネジメントとリーダーシップ	2	研修実施日	教師の実践省察の理論と方法		研修実施日	協働的なマネジメントのあり方
3		アクティブ・ラーニングの授業と学習評価	ゼミ			3			ゼミ		特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究
4		児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ				4					研究・研修のデザイン
集中講義	地域教育課題に関する体験プログラム開発、学校のリーガルマインド、特別支援の児童生徒理解と援助(メディア科目)					集中講義	地域協働と学校間連携				



磯部 征尊 准教授
ISOBE Masataka

共通科目……………青
専門科目
コース共通専門科目…紫
コース専門科目…橙
実践研究省察科目…桃
自由科目……………黒

※2年次は研修と実践研究報告書作成中心



》》 教科指導重点コース

言語・社会科学系(国語・社会・英語・生活)/理数・自然科学系(数学・理科・情報)/造形・創造科学系(音楽・美術・保健体育・技術・家庭)/小学校教育指導系

教科の特性を活かした教材・授業開発力の育成

本コースでは、教科教育の本質である教授法・カリキュラム論及び教科内容学を反映させた教材開発論に基づき、教科指導に関する共通性を学びつつ、各教科の固有性・専門性を学びます。

言語・社会科学系、理数・自然科学系、造形・創造科学系の3つの系では、小・中学校における実践力及び探究力の育成を目指す義務教育履修モデルと、高等学校における実践力及び探究力の育成を目指す高校教育履修モデルを置き、児童・生徒の発達段階や、教科の特性に基づいた講義や研修を通して高い実践力を有する学生の育成を目指しています。また、令和6年度から開設した小学校教育指導系では、小学校における授業づくりの方法論、学級経営、幼小・小中連携や教科横断的な視点等について学びを深めていきます。

■ 時間割の例 [小学校教育指導系の場合]

1年前期	月	火	水	木	金	1年後期	月	火	水	木	金
1		道徳教育の理論と実践	教科横断的なカリキュラムの創造			1		教科教育の理論と実践(道徳・特別活動)			
2	総合的学習のカリキュラム編成と実践	カリキュラムのデザインと評価	カリキュラムの構想と授業づくり		学校マネジメントとリーダーシップ	2	研修実施日	教師の実践省察の理論と方法	教科教育の理論と実践(図画工作・美術)	研修実施日	協働的なマネジメントのあり方
3		アクティブ・ラーニングの授業と学習評価	ゼミ			3		教科教育の理論と実践(小学校社会)	ゼミ		特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究
4		児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ				4					
集中講義	地域教育課題に関する体験プログラム開発、特別支援の児童生徒理解と援助(メディア科目)、生徒指導・相談活動の実践的な進め方(メディア科目)					集中講義					



松井 孝彦 教授
MATSUI Takahiko

共通科目……………青
専門科目
コース共通専門科目…紫
系共通科目……………赤
系専門科目……………橙
実践研究省察科目…桃
自由科目……………黒

※2年次は研修と実践研究報告書作成中心



》 児童生徒発達支援コース

生徒指導・教育相談系／幼児教育実践系／
養護教育実践系／特別支援教育実践系



山田 浩平 准教授
YAMADA Kohei

発達段階に即した問題解決力の育成

このコースは、子どもの心身の発達を多面的に捉え、個に即した問題解決力を備え、学校組織内外の専門スタッフと連携・協働を進めることができる人材の育成を目的とします。

大学院の授業では、コース共通科目である「子どもの発達と援助ニーズの理解と実践」、「子どものことばの発達とその支援」、「協働のための社会資源の理解と活用」を通じて、子どもの発達過程や特別な支援を必要とする子どもについて学ぶとともに、「チーム学校」の理念のもと、子どもを取り巻く社会資源の理論と実践について学びます。そして、各系で展開される専門科目で専門内容についての学びを深めていきます。

■ 時間割の例【特別支援教育実践系の場合】

1年前期	月	火	水	木	金	1年後期	月	火	水	木	金
1				知的障害児童生徒の理解と支援		1			特別支援教育と発達臨床		子どものことばの発達とその支援
2	子どもの発達と援助ニーズの理解と実践	カリキュラムのデザインと評価	聴覚障害児童生徒の理解と支援	肢体不自由児童生徒の理解と支援		2	研修実施日	教師の実践省察の理論と方法	発達障害児童生徒の理解と支援	研修実施日	協働的な学校マネジメントのあり方
3		アクティブ・ラーニングの授業と学習評価	ゼミ			3			ゼミ		特別なニーズのある児童生徒のアクセスメント
4		児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ				4					
集中講義	地域教育課題に関する体験プログラム開発、特別支援の児童生徒理解と援助(メディア科目)、生徒指導・相談活動の実践的な進め方(メディア科目)					集中講義	Society 5.0に向けたAI活用のできる人材育成(メディア科目)				

共通科目……………青
専門科目……………紫
コース共通専門科目……………橙
系専門科目……………桃
実践研究省察科目……………黒
自由科目……………黒

※2年次は研修と実践研究報告書作成中心



》 地域・教育課題解決コース

外国人児童生徒支援系／
ICT活用・科学ものづくり推進系



松永 豊 教授
MATSUNAGA Yutaka

地域との連携協働による教育諸課題への対応力の育成

このコースは、現代の教育課題を学校内外の関係者・関係諸機関との連携の中で解決していける人材の育成を目的とします。

外国人児童生徒支援系では、教員として外国人児童生徒や保護者の支援ができるだけでなく、多角的な視点から「多文化共生社会／学校」づくりを中心となって進めていける人材の育成を目指します。そのため、広く社会問題に関心を持ち、柔軟な発想ができる、自ら課題解決に動こうとする人を求めます。

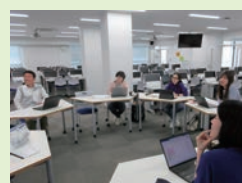
ICT活用・科学ものづくり推進系においては、STEAM教育をはじめとして、社会の変化に柔軟に対応でき、新たな価値を創造できる人材の育成が目的です。教育現場でのICT利用を含む、様々な形でのICTの活用法を学び、実践力を身に付けます。また、科学ものづくりの面白さを理解したうえで、教材作りや授業構築に役に立つ力を学修します。

■ 時間割の例【外国人児童生徒支援系の場合】

1年前期	月	火	水	木	金	1年後期	月	火	水	木	金
1		道徳教育の理論と実践				1					次世代の教育課題と地域創生
2	カリキュラムのデザインと評価	カリキュラムのデザインと評価	多文化共生社会と日本語教育の課題		学校マネジメントとリーダーシップ	2	研修実施日	教師の実践省察の理論と方法	保護者・地域の支援ネットワークとの連携	研修実施日	協働的な学校マネジメントのあり方
3		アクティブ・ラーニングの授業と学習評価	ゼミ			3			ゼミ		特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究
4		児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ				4					
集中講義	地域教育課題に関する体験プログラム開発、教科学習における日本語教育の実際、特別支援の児童生徒理解と援助(メディア科目)					集中講義	外国人児童生徒への日本語教育の教材開発、Society 5.0に向けたAI活用のできる人材育成(メディア科目)				

共通科目……………青
専門科目……………紫
コース共通専門科目……………橙
系専門科目……………桃
実践研究省察科目……………黒
自由科目……………黒

※2年次は研修と実践研究報告書作成中心



学生インタビュー

■ 教職大学院へ進学した理由について教えてください。

教師としての専門性を高めたいと感じたからです。学部生時代の教育実習を通して、私がつ教育観の大部分は自分自身の被教育経験によって構成されていることに気がきました。しかし、今の社会及び学校、子どもたちの実態は私の学生時代とは異なります。「理論と実践の往還」による学びから、自分自身の教育観を見つめ直し、教師としての専門性を高めたいと考え、教職大学院へ進学しました。

■ 研究テーマについて教えてください。

高校で扱われている村上春樹作品の教材分析が主たる研究テーマです。学部生時代には文学研究として学んできた内容を、どのように教育に活かしていくか模索しています。教材そのものが備える内容的価値、技能的価値の発見とともに、実践の対象となる生徒たちにとっての教材的価値にも注目して研究を進めています。

■ 教職大学院での学びの魅力は何ですか。

講義の中で現職の先生方からお話をうかがうことができる点と、長期間にわたる実践の中で、研究を進められる点です。講義では自分の専門分野に留まらず、学校におけるマネジメントやICTの活用などこれからの学校現場に必要な知識や技能を学ぶこともできます。

■ 修了後どのような先生になりたいですか。

子どもたちと共に成長し続けられる教師になりたいです。求められる「良い教師」は時代とともに変化します。また、向き合う子どもたちによっても異なると考えられます。そのため、目の前にいる子どもたちにとって「良い教師」であるよう、成長し続ける教師を目指します。



教育実践高度化専攻(教職大学院)
教科指導重点コース
言語・社会科学系(国語) 2年生

子安 琴乃さん

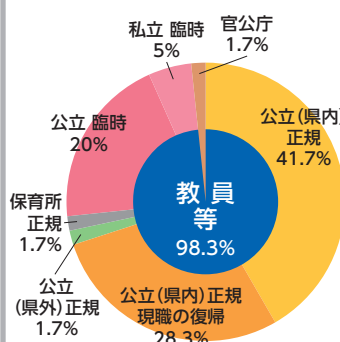
取得可能免許状

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教
- 高等学校教諭専修免許状
国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教
- 特別支援学校教諭専修免許状
視覚、聴覚、知的、肢体、病弱
- 養護教諭専修免許状

※大学院の単位修得によって専修免許状を取得するにあたっては、対応する一種免許状を有している必要があります。

修了生の就職状況

2022年度本学教職大学院修了生の就職状況



2022年度の修了生の教員等就職率は **98.3%**と高い実績を挙げています。

入学時からの手厚い進路指導

本学キャリア支援センターでの小論文指導、面接指導に加え校長OBの実務家教員を中心とした指導体制が充実しています。

充実した実習内容

連携協力校との強固な繋がり、長期の実習で確かな実践力と強い信頼関係により配当先の連携協力校へ就職する事例もあります。

小・中学校教員免許状取得プログラム

本プログラムでは、教職大学院に3年間に在学し、教職大学院の授業履修に加えて、学部の免許状取得に必要な科目を履修することで、他校種の教育職員免許状を取得できます。授業料については所定の修業年限(3年)相当の授業料を納入します。

本プログラムの
学生数

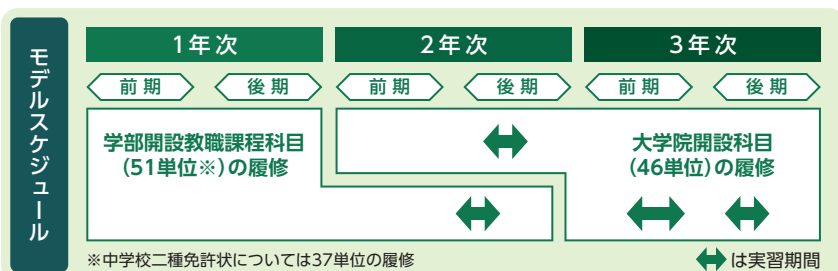
小学校：30名以内
中学校：若干名

本プログラムの
中学校開講教科

英語、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、国語(二種免許状のみ)、
社会(二種免許状のみ)、数学(二種免許状のみ)、理科(二種免許状のみ)

本プログラムへの
申請資格

小学校：本学大学院に申し込んだ者のうち、小学校教員免許状を取得していない者(取得見込みの者は不可)
中学校：本学大学院に申し込んだ者のうち、幼稚園・小学校・中学校(他教科)・高等学校(他教科)いずれかの教員免許状(一種)を有する者又は取得見込みの者



取得資格

教職修士(専門職)
+
小学校教諭専修免許状、
中学校教諭免許状(各教科)※

※英語・音楽・美術・保健体育・技術・家庭については専修免許状、国語・社会・数学・理科については二種免許状となります。

教育支援高度化専攻

修士課程

教育支援高度化専攻は、教育現場と地域に即した高度な専門的知識、教育方法、研究能力を身に付け、学校をプラットフォームとした「チーム学校」体制の実現を目標とする次世代の日本型教育システムを研究開発し、それを諸外国も含め実践・発展できる人材を育成することを目的としています。

2020年度から、心理専門職を養成する「臨床心理学コース」と留学生を対象とした「日本型教育グローバルコース」の2コースを設置しています。また、2021年度からは、次世代型教育・学校づくりをリードする教育行政職を養成する「教育ガバナンスキャリアコース」を設置し、計3コースを設置しています。

❖ 修了要件

本専攻では、共通科目、コース科目、「特別研究科目」としてのゼミ科目について、右表のとおり修得し、修士論文の審査に合格することで修士(教育学)の学位が授与されます。

詳しくは、右のQRコードからご確認ください。



科目区分	単位数(合計30単位)			内容
	臨床心理学コース	日本型教育グローバルコース	教育ガバナンスキャリアコース	
共通科目	必修4	必修4	必修4	地域的課題と国際的な視野からの教育力の養成及び各コースの基盤となる共通科目です。
	選択2	選択2	選択2	
専門科目	選択16	選択14	選択16	各コースの専門性及び研究能力を高めるためのコース科目です。
ゼミ科目	必修4	必修4	必修4	修士論文の作成等に関する研究指導を中心とした特別研究科目です。
自由科目	選択4	選択6	選択4	専門職学位課程での開設科目も履修できる「相互履修」を保障し、「チーム学校」を意識した能力の高度化を図ることを目的としています。

» 臨床心理学コース

「チーム学校」として地域社会で協働できる高度な心理専門職の育成

社会の多様化や経済成長の停滞に伴って、保健医療、福祉、教育などの多領域における心理支援の必要性が高まっています。コロナ禍以降、不登校の増加は著しく、今やスクールカウンセラーなどの心理専門職は、地域社会において不可欠な存在です。また、いじめや不登校、神経発達症のある子どもやその保護者支援などの心理・教育的課題だけでなく、児童虐待や貧困、災害時の心のケアなどにおいて、心理学を基盤とした支援や心理アセスメントにおける高度な実践力が求められます。本学では、心理職としての専門知識及び実践技能の獲得とともに、クライアントに真摯に向き合い、他者と協働できる「現場志向の専門職養成」を目指します。



高橋 靖子 教授
TAKAHASHI Yasuko

■ 取得できる受験資格

臨床心理士 臨床心理学の知識や技術を用いて人間のこころの問題にアプローチするところの専門家です。公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による第1種指定大学院の指定を受けており、修了すると実務経験免除で受験資格を得ることができます。

公認心理師 保健医療・福祉・教育等の広範な領域において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって観察・分析、助言・指導、教育・情報提供する心理職の国家資格です。所定の単位を取得することで受験資格を得ることができます。(ただし、学部において所定の心理学関連科目の単位を修得していることが条件となります。)

■ 時間割の例

1年前期	月	火	水	木	金	土	1年後期	月	火	水	木	金	土	
1		心理実践実習(教育領域)	臨床心理学実習Ⅰ(心理実践実習)	発達臨床心理学特論(一部)			1		心理実践実習(福祉領域)	臨床心理学実習Ⅱ			心理実践実習(学内相談施設)	
2	障害児臨床特論			臨床心理学面接特論Ⅰ	臨床心理学面接特論Ⅱ		2	犯罪心理学特論			臨床心理学面接特論Ⅰ			
3	心理・教育統計法特論			臨床心理学面接演習Ⅰ	学校臨床心理学特論		3	臨床心理学特論Ⅱ		臨床心理学基礎実習Ⅱ	臨床心理学面接演習Ⅱ			
4	精神医学特論				臨床心理学査定演習Ⅱ		4	臨床心理学査定演習Ⅰ			心理健康教育特論			
5							5							
6				学校臨床実習Ⅰ			6				学校臨床実習Ⅱ			
集中講義	発達臨床心理学特論(一部)、教育・子ども支援高度化のための理論と実践、臨床心理学研究法、心身医学特論、心理療法特論、特別研究Ⅰ							集中講義	人間関係学特論、家族心理学特論、心理実践実習※(※2年にかけて履修)、地域協働と学校間連携、特別研究Ⅱ					

※2年次は実習・修士論文作成中心



》》 日本型教育グローバルコース Japanese-style Education Course



マイヤー オリバー 教授
MAYER Oliver

日本型教育システムを自国教育に拡充する教育者・研究者の育成

本コースは留学生専用のコースです。本コースの目的は、留学生が日本の教育を学び、帰国した後、それを母国に広めてもらうことです。本コースの学生は、小学校・中学校・高等学校の各教科の教育方法や教材研究について学ぶことができます。授業研究と呼ばれる、日本型の教科開発の方法を学ぶこともできます。本コースの授業科目のほか、教職大学院の授業科目も履修することができます。本コースへの入学を希望する方は、事前に教務企画課に相談してください。

The course aims to provide the international students with a comprehensive understanding of Japanese-style education, which will be useful skills required to be successful scholars and teachers after returning to their home countries. Students can learn the teaching methods and teaching materials of each subject taught in elementary, junior high and senior high schools. They can also learn "Jugyo Kenkyu", known as the Japanese-style Lesson Study for developing teaching subjects. Outside of our course, students can take the classes of the Graduate School of Professional Teacher Education. If you are interested to apply to our course, please contact the Educational Affairs and Planning Division before submitting the application document.

■ 時間割の例

1年 前期	月	火	水	木	金	1年 後期	月	火	水	木	金
1			探究型カリキュラム・教材の開発とグローバル化	日本型教材の開発と授業デザイン演習		1					
2			日本型教材の開発と授業デザイン I			2	日本型教育システムにおけるICT活用の方法		日本型教育の理解のための日本語 II		
3		教育制度・カリキュラムの国際比較		教育における統計分析の方法		3	日本型教材の開発と授業デザイン II			学校におけるICT活用の方法	
4		人間発達の国際比較		日本型教育の理解のための日本語 I		4					
集中講義	教育・子ども支援高度化のための理論と実践 日本型教育実践研究 II					集中講義	地域協働と学校間連携 日本型教育実践研究 I 特別研究 I				

※2年次は修士論文作成中心



》》 教育ガバナンスキャリアコース

「次世代型教育・学校」づくりをリードする専門職人材を育成

本コースは、自治体職員や学校事務職員等、社会で活躍するミドル人材を受け入れ、教育・学校での現代的課題の解決を図る実践的応用力を有する教育行政専門職の育成を目的としています。

目的に向けて、教育・学校現場におけるニーズを的確に把握し、地域や学校の実情と政策の動向を踏まえた総合教育計画やGIGAスクール構想を受けた教育の情報化ビジョンや教育環境整備計画の策定、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の設置・活性化など、自治体の教育政策や学校経営の基本方針を戦略的に企画・立案でき、教育・学校づくりに関わる業務を専門的見地から支援・調整できる資質・能力を養います。

次世代の教育・学校づくりに高い志を持ち、教育行政リーダーを目指す皆さんをお待ちしています。



本多 正人 教授
HONDA Masato

■ 専攻科目の構成



■ 時間割の例

1年 前期	月	火	水	木	金
6 (18:20~19:50)	教育を取り巻く経済事情	教育行政の組織と法制度		教育における統計分析の方法	
集中講義	教育・子ども支援高度化のための理論と実践 教育政策の分析と戦略立案 多文化共生社会論 教育ガバナンスリーダーシップ演習 教育ガバナンスフィールド調査 I				
1年 後期	月	火	水	木	金
6 (18:20~19:50)	教育事務職員の職能開発と研修プログラム開発	教育の情報化概論		教育と公共政策	
集中講義	地域協働と学校間連携 学校のガバナンスとマネジメント 地域教育計画と地域学校協働 教育政策・学校経営インタビューシップ 特別研究 I				

2年次 前期開講科目

- ・学習環境デザイン論
- ・公教育財政論
- ・教育と子どもの権利論
- ・教育メディアーションの理論と実践(隔年開講)
- ・教育ガバナンスフィールド調査 II
- ・特別研究 II

※2年次後期は修士論文作成中心



共同教科開発学専攻

後期3年だけの博士課程

【教育環境学・人文社会系教科学・自然系教科学・創造系教科学】

体系的な教員養成カリキュラムの編成
及び専門科目の体系化を可能とする大学教員養成

共同教科開発学専攻は、共同教育課程制度を活用し、愛知教育大学と静岡大学の教育学研究科に設置された、後期3年だけの博士課程です。

教育を取り巻く社会状況や学校教育が抱える課題が複雑化し、学校教育現場の教員に高い資質能力が求められています。中央教育審議会においても、教員の資質能力の向上のための教員養成システムにおける修士レベル化が検討され、各地に教職大学院が設置されています。これらに対応するための体系的な教員養成カリキュラムの編成及び専門科目の体系化、また、それを可能とする大学教員養成が喫緊の課題となっています。このような課題に応えるため、両大学ともに、理論と実践を融合した高度な研究と教育を行い、その知見によって広く学校・社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

❖ 本共同大学院の主な特徴

- 愛知教育大学と静岡大学の連名による学位「博士(教育学)」が授与されます。
- 学籍を置いた大学以外の構成大学の教員からも研究指導を受けることができます。
- 愛知教育大学、静岡大学両大学で開講する講義を受講することができます。
- 土・日曜日、夏季・冬季休業を利用して単位取得・学位取得が可能です。
- 在職中の方でも、休職せずに学ぶことができます。
- 長期履修制度により、余裕のある学生生活を送ることができます。

共同大学院に関する詳細な情報については、右のQRコードからご確認ください。



❖ 「教科開発学」とは

専攻名称ともなっている「教科開発学」は、教科専門・教科教育・教職専門の枠を越えて、子どもたちを取り巻く環境を視野に入れ、教科との関わりの中で学校教育が抱える複雑・多様化した諸問題に対応した研究を遂行していくため、教科専門と教科教育を融合・発展させた「教科学」と、教職専門を発展させた「教育環境学」とをあわせて体系化することを目指す新たな学問領域です。

❖ 過去の博士論文

- 非認知的スキルの育成に資するサービス・ラーニング型総合的な学習の時間に関する研究
- デューイ実験学校における歴史教育の理論と実践に関する研究
—デューイのメリオリズムと成長論の萌芽としての適応論に着目して—
- 電気抵抗の科学的概念の形成を促す教材と指導法の開発
- Developing ICT-Based Teaching Material for Physics Education in Cambodia
カンボジアにおける物理教育のためのICTを基礎とした教材開発

科目区分	修了単位数 (合計20単位)	内容
基礎科目	必修3	教科開発学の原理的諸課題や教科開発学の研究方法論を習得したり、大学教員としての教育実践力、教員FD等、実践的諸課題を探究したりするための専攻基礎科目です。
	選択3	
分野科目	選択10	教育環境学と教科学の先進的かつ多様な知見を習得するとともに、その知見を教科開発、教育方法、教材開発などに活用することを追究するための専攻分野科目です。
応用科目	必修4	教員から提示された研究課題や自己の研究課題について、成果発表を通じた学生自身の課題追究、各学生の研究進捗状況をフォローアップするための専攻応用科目です。



共同教科開発学専攻
教育環境学分野 3年生
諏訪園 純 さん

PROFILE

国語科専任教員として15年以上の経験と実績を持つ。本専攻では、学習者にとって古典を価値あるものとするため、主に「源氏物語」を手がかりとして教材や指導法について研究している。

◆ 仕事との両立について教えてください。

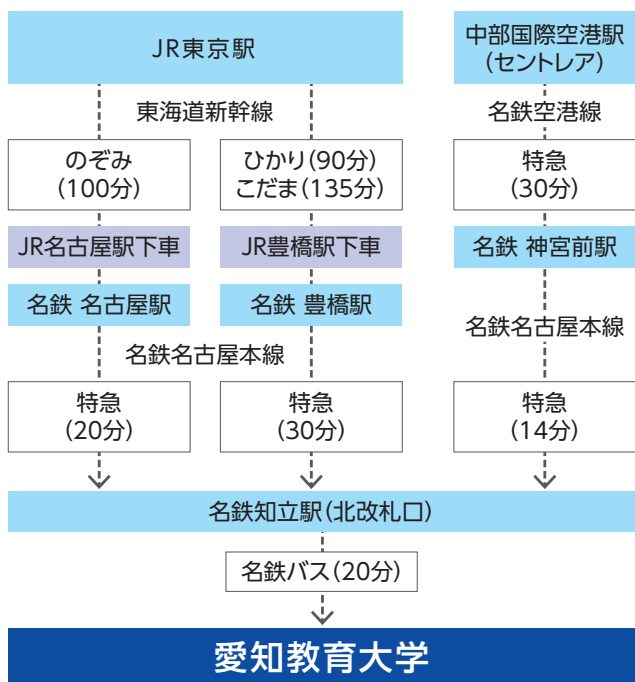
私は中学校・高校の専任教員として勤務していますが、大学院の授業は土曜・日曜に行われるため、平日の勤務と並行して問題なく受講することができます。博士論文に向けた研究については、私の勤務日程と調整の上で、主指導教員と2名の副指導教員の先生方による細やかで継続的なご指導をいただきながら、安心して取り組むことができます。また、現職教員を続けながら円滑に大学院生活を送れるよう、事務職の方々のサポート体制も非常に充実しています。

◆ 博士課程で得られたことは何ですか。

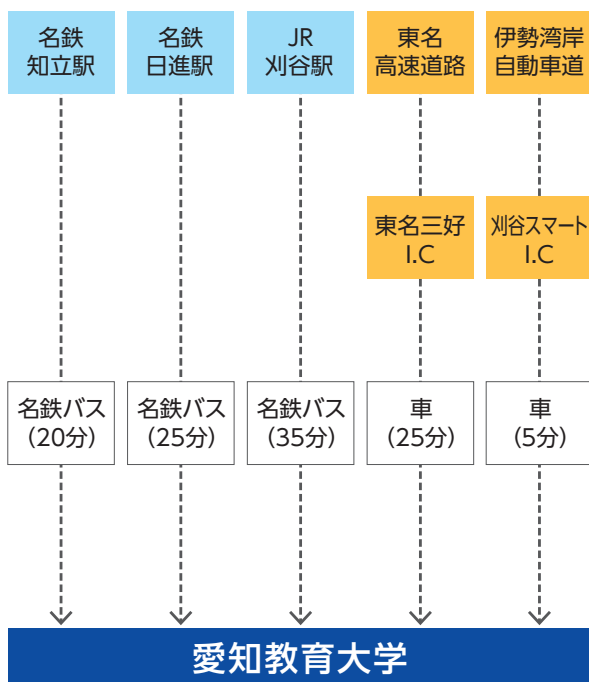
今日の教育環境に適合した教科内容構成を研究する本専攻での学びにより、現職教員として学校教育現場で勤務する際の見方や考え方が相対化され、変わってきていると思います。教育現場での実践と大学院の授業で得られる(主に)理論とが、相乗効果を生み出していると感じられます。例えば、教室の内外での生徒のちょっとした言動も、その背景にある意味や理路とともに捉え、考えることができるようになりました。そして、そうした実践の場での感触を自分の研究にも活かすことができます。また、教育環境学を含めた様々な分野の授業を受講することにより、教科に関して、単に親学問を縮小した教科内容化ではなく、教科専門・教科教育・教職専門という3つの領域を連携させた中で実践的・実証的に研究する姿勢が自分の中に培われていることを実感しています。

ACCESS

東京駅・セントレアからお越しの場合



近隣からお越しの場合



- 名鉄名古屋本線「知立駅」北改札口からバスで約20分「愛知教育大前」下車
 - 名鉄豊田線「日進駅」からバスで約25分「愛知教育大前」下車
 - JR東海道本線「刈谷駅」北口からバスで約35分「愛知教育大前」下車
- ※鉄道・バスの発着時刻等については、各交通機関のホームページ等でご確認ください。



愛知教育大学のHPはコチラ → 

<https://www.aichi-edu.ac.jp/>

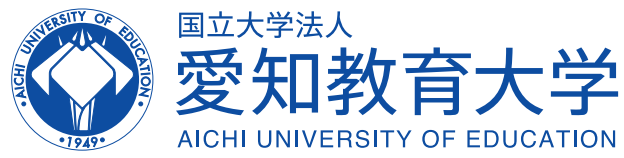


入試について

入 試 課 TEL 0566-26-2203

修学相談について

教 務 企 画 課
 教 職 大 学 院 TEL 0566-26-2679
 修 士 課 程 ・ 博 士 課 程 TEL 0566-26-2697
 共 通 メール ア ド レ ス support_ml@m.auecc.aichi-edu.ac.jp



愛知教育大学大学院
 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学大学院教育学研究科2025
 令和6(2024)年6月発行
 編集：教務企画課